

正誤表

『分担 解剖学 第3巻 感覚器学・内臓学』第11版 第1刷（1982年2月20日発行）～第36刷（2026年4月1日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2026年4月24日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
175	上から 16～19 行目	d. 上咽頭収縮筋 M. constrictor pharyngis superior (M. cephalopharyngicus) : 翼状突起の内側板, <u>咽頭縫線</u> , 下顎骨の顎舌骨筋線の後端, および横舌筋のつづきから起こって, 咽頭後壁の上部で <u>翼突下顎縫線</u> に終る (翼突咽頭部 Pars pterygopharyngea, 頬咽頭部 Pars buccopharyngea, 顎咽頭部 Pars mylopharyngea, 舌咽頭部 Pars glossopharyngea)。	d. 上咽頭収縮筋 M. constrictor pharyngis superior (M. cephalopharyngicus) : 翼状突起の内側板, 翼突下顎縫線 , 下顎骨の顎舌骨筋線の後端, および横舌筋のつづきから起こって, 咽頭後壁の上部で 咽頭縫線 に終る (翼突咽頭部 Pars pterygopharyngea, 頬咽頭部 Pars buccopharyngea, 顎咽頭部 Pars mylopharyngea, 舌咽頭部 Pars glossopharyngea)。
175	下から 7～5 行目	e. 中咽頭収縮筋 M. constrictor pharyngis medius (M. hyopharyngicus) : 舌骨の大角および小角から起こり, 上咽頭収縮筋の下部を後方より被いつつ <u>翼突下顎縫線</u> に至る (小角咽頭部 Pars chondropharyngea, 大角咽頭部 Pars ceratopharyngea)。	e. 中咽頭収縮筋 M. constrictor pharyngis medius (M. hyopharyngicus) : 舌骨の大角および小角から起こり, 上咽頭収縮筋の下部を後方より被いつつ 咽頭縫線 に至る (小角咽頭部 Pars chondropharyngea, 大角咽頭部 Pars ceratopharyngea)。

以上